

巻 頭 言

2026 年度始業礼拝 「善悪二元論を超えて」

イザヤ書 45 章 5～7 節 (聖書協会共同訳) 神学部長 日原 広志



45:5～7

私は主、ほかにはいない。 / 私のほかには神はいない。

私はあなたに力を授けたが / あなたは私であると分らなかった。

それは、日の出る所からも、日の沈む所からも / 人々が知るためである。

私のほかは無に等しい / 私は主、ほかにはいない。

光を造り、闇を創造し / 平和を造り、災いを創造する者。

私は主、これらすべてを造る者である。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。西南学院大学神学部へようこそいらっしゃいました。在校生の皆さんはお帰りなさい。ご来場の皆様はご多忙な中、神学部を覚え始業礼拝に集っていただき心より感謝申し上げます。

神学 Theology とは新約聖書の言語ギリシア語ではテオロギア (θεολογία) —— θεός (神) + λόγος (言葉) 「神の言葉」となります。「言葉」とは何でしょう。旧約聖書の言語ヘブライ語では言葉はダーヴァールといいます。ところ変われば品変わる、ということで、ヘブライ語は右から左ヘダーヴァールと書きます。聖書のダーヴァール「言葉」は、シャボン玉ではなくビームのようなものです。ブログやつぶやきのような、聞き手を想定していない独り言ではなく、特定の相手、取り換えの効かない聞き手に向かっての、徹底的な語りかけです。そこには具体的な関係性があり、聞き手があります。文脈を持った「言葉」です。今日のイザヤ書 45 章も、取り換えの効かない具体的な相手に向かっての徹底的な語りかけです。5 節「私はあなたに力を授けたが / あなたは私であると分らなかった。」「私」は聖書の神です。では、「あなた」はだあれ？ キュロス大王です。

キュロス 2 世は、アケメネス朝ペルシア帝国 (現代のイラン) の初代王 (在位 紀元前 559・529 年) で、新バビロニア帝国を滅ぼし (前 539 年)、キュロス勅令でバビロン捕囚にあったユダヤ人を解放…。高校世界史を選択した人なら、いくつか習ったような記憶があるかもしれませんね。要するに、聖書の民を解放した、外国の王です。5 節「私 (聖書の神) はあなた (キュロス) に力を授けたが、あなた (キュロス) は私 (聖書の神) であると分らなかった。」の「力を授けた」とあるのは、まさにキュロスの台頭とペルシア帝国の勃興を指しているのです。神の徹底的な語りかけは、自分の宗教に入信し

た人間だけに限定されません。造り主たる神にとってすべての人間・被造物は語りかける相手なのです。

ところでペルシア帝国と言えば、宗教はゾロアスター教 (祆教) (拝火教) で、その宗教の特色とえば、善悪二元論です。善悪二元論とは、善と悪が綱引きしている、その間にあるのがこの世、とみなす考え方です。この善悪二元論にはスッキリ感と落とし穴が両方あります。ここからはキュロスやゾロアスター教そのものから離れて、いわゆる二元論的人間観・世界観というものを単純化して図示します。起点 0 に人間が居り、+100 の方向に神がおり、-100 の方向に悪魔がいる。神の側に光があり、悪魔の側に闇がある。光の側に善があり、闇の側に悪がある。神に近づけば救いに至り、悪魔に近づけば滅びに至る。愛と義は神の専売特許、憎しみと不義は悪魔の専売特許。このようにスッキリ分けられます。これ自体、倫理・道徳を教える際には有効な図式でしょう。しかし二元論は、それが全ての上に立つ考え方として個人、組織、宗教に浸透したとき、危うい落とし穴を用意します。もう予想はついででしょう。ひとたび、自分を「正義の側」と位置付けると、自分と異なる相手はこちら側ではない、「闇の勢力」とみなされます。自分は絶対に正しい、間違いを犯さない側となります。「間違い」は向こう側にいる不倶戴天の敵・撲滅対象の属性だからです。そして相手もこの図式に陥っているとき、断絶・対話不能状態が続いていくことになります。別にこの図の右半分の危うさが特定の国や宗教に固有というわけではないですが、少なくともキュロスは自分の宗教と共にこの図の左半分の二分法を空気のような当たり前として吸収して生きてきたわけです。

そんなキュロスに神は徹底的に語りかけます。意表を突く形で。7 節「光を造り (צַרַּח)、闇を創造し (בָּרָא) / 平和を造り

(עשה)、災い(רע)を創造する(ברא)者。わたし〔神〕は主、これらすべてを造る者である。」二元論では前半部分はイメージ通りでしょう。「光と平和は神のものだよね!」と。けれども後半部分には仰天するでしょう。「闇とか災いとか悪魔のものでしょ!？」と。そこには二元論をシレっと超えていく聖書の神の姿があります。聖書は「vs. (バーサス)」対立図式ではなく「& (アンド)」包括的なのです。

古代イスラエルの素朴な神観は図のようなものでした。全てのものは神から出て神に帰る。他の起源はなく、他の方向性もない。神の真逆のベクトルなど存在しないし、神の対極に神と並び立つ恐るべきものなどあろう筈が無い。そこには、おおかでゆるぎない神への信頼がありました。聖書が古くから持つこの発想は、二元論を超えていく視点を与えてくれます。2例ほど見てみましょう。

たとえばヘブライ語(旧約)聖書におけるオール「光」& ホーシェフ「闇」はこんなイメージです。水彩12色絵の具セットを思い出してください。綺麗でそれぞれが原色の輝きを持っていますね。それがオール「光」です。一方、水彩絵の具をバケツの水に溶いていくと、最初は綺麗な中間色に染まりますが、混ぜすぎると後は暗く濁るだけです。この全色混ざった濁り水がホーシェフ「闇」です。「闇」は混濁し過ぎて窒息し本来の輝きを忘れた「光たち」でしかない。創世記1章5節では神は光と闇の名付け親になっています。闇は光の対立概念でもなければ神の敵でも悪でもないのです。

聖書のトープ「善」& ラア「悪」も同様です。+100に至ることに成功しているのがトープ「善」。残念ながらそれに失敗しているのがラア「悪」です。ラアは「明日はトープになるう」でしかない。エデンの園の中央にあったという「善悪の知識の木」(創2:9)について聞いたことがあるでしょう。ヘブライ語本文では「かの知識『トープ&ラア』の木」です。善vs.悪ではなく善&悪、それが真の知識だと言うのです。

善悪二元論を捨てないと読めないのが聖書です。神がご自身を「光を作り、闇を創造する者」と宣言するのを聞いて、私なんぞは「闇(敵・悪)をなぜ撲滅しないのか!」という思いに駆られますが、そのとき私は、善悪二元論的発想に染め上げられていることになります。「闇(混濁した光)を創造する(ときほぐして救い続けている)者」!ここには、キュロスの固定観念を超える徹底的な語りかけをする神の自由さがあります。この神の自由さが、ずっと後の時代の新約聖書における、ナザレのイエスの神の国運動へと受け継がれています。イエスも当時の聖書の硬直した読み方をラディカルに突破していきました。

今日の箇所から、今、神学する意味が見えてきます。先の見えない生きづらい時代には二元論が流行します。二元論はスッキリ分けて楽にしてくれます。自分を無謬(むびゅう。誤りを犯さない、いつも正しい存在)にしてくれます。しかし、そこにはレッテル貼り・思考停止・分断・敵視の継続が伴い、自分達のやる戦争・暴力・差別・憎悪・偏見・テロ・ハラスメントすべてが正当化される危険性があるのです。だから、二元論を超えていく神から、既知の常識とは異なる視点をもらい、二元論という硬直したイデオロギーを「神」の

座につけない自由さと批判精神を持った平和を作り出す人になりましょう。新約のイエスのように。

最後に、神学部の卒業生のコメントを紹介します。「新しい価値観を得て、生き方が変わった」「当初は薄い興味しかなかったが、学んだ後の満足度は高かった」「神学は過去だけではなく、現代や社会と密接につながっている学問」「自分で考え、心をプラスに置く力を鍛えるのに、“正解のない学問”である神学部の各クラスやチャペルが最適の環境であり、神学部=社会に通用する学部」——この学び舎で共に神学を分かち合っていきましょう。

お祈りをいたします。神様。聖書とも聖書の神とも何の関係もなかった大王が、聖書の神に語りかけられることを通して、自分の世俗的常識や宗教的固定観念を突破する意表を突く現実を見るまなざしを与えられたように、これから始まる神学部の学びが、神学コース生にとっても人文コース生にとっても、意表を突く発見に満ちた一年となり、また大学時代となりますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。(PPTによる説教)

2026 年度 入学生

【学部】

1 年次 (キリスト教人文文学コース) 15 名

【神学コース学士】1 名

麦野 基和 (推薦教会：福岡西部バプテスト教会)

【神学コース選科】1 名

橋口 恵 (推薦教会：長住バプテスト教会)

【大学院神学研究科博士前期課程】2 名

(神学コース1 名)

伊藤 健一 (推薦教会：福岡城南教会)

【大学院神学研究科博士後期課程】2 名

高橋 周也 (豊前キリスト教会)

劉 雯竹 (バプテスト東福岡教会)

《 2026 年度 神学部・大学院神学研究科 学生人数表 》

学部	専攻科	4 年次	3 年次	2 年次	1 年次	計
神学コース			1	1		2
人文文学コース		10	8	11	15	44
選 科	2		1			3
専 攻 科						
合 計	2	10	10	12	15	49

*カリキュラム上、選科1 年は学部3 年次、2 年は4 年次、3 年は専攻科とする

大学院	博士後期 3 年	博士後期 2 年	博士後期 1 年	博士前期 2 年	博士前期 1 年	計
合 計	1		2	2	2	7

総 合 計	56
-------	----

2025 年度卒業礼拝説教 2026 年 3 月 18 日(木) 於：西南学院大学チャペル

「負わされる十字架～私の『使命』と『テーマ』」

ルカによる福音書 23 章 26～34 節

常盤台バプテスト教会主任牧師 友納 靖史



この神学部専攻科を卒業させて頂き、37年の月日が経ちました。母校の大切な卒業礼拝で、ご奉仕させて頂ける恵みを、皆さまと主なる神に感謝します。春の卒業式は毎年、教会暦の受難節・レントと重なります。主イエスが担われた十字架と復活の出来事、つまり父なる神から託された使命を全うされた主の生涯を覚える時でもあります。今日、大切な節目を迎える方々の将来の歩みを覚えつつ、私たちの人生それぞれに、神から与えられる「使命とテーマ」について御言葉から分かち合わせてください。

高校・大学法学部・神学部を合わせて約10年、この西南学院のキャンパスで過ごしましたので、学院校歌は誦んじられるまでにされました。学院校歌の3節に、こう歌われます。「遙けきかな わが行く道、さあれ友よ、使命重し」と。私たち西南生に担うことを問いかけられる、重き『使命』とは何を指すのでしょうか？

献身を決意し、神学部に入り、その後の牧会に関わり始めてから、しばらくの時まで、私にとっての「使命」とは、主イエスの招きに応じて従った弟子たちのように、自らの意思と決意によって担うもの、それが「使命・ミッション」だと思っていました。ですから、ルカ福音書9章23節で主が十字架にてその命を捧げることを弟子に予告された言葉があります。「イエスは皆に言われた、『わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』。このように、主に従う時、与えられるその使命とは、何より私たちの決断によるのだと。

ところが、今日、選ばせて頂いた冒頭の箇所、十字架を背負えなくなった主イエスの代わりに、キレネ人シモンが、自分には全く関わりのない方の十字架を無理やり、有無さえも言えず、担わせられる理不尽な出来事。これは、たまたまそこに居合わせたことで、死刑を言い渡された見知らぬ人の十字架を負わされる可哀そうな人の物語のよう思っていたことがありました。ですが今、これまで卒業し40年近い歩みを通し、「主イエスに託される私たちの負うべき十字架、人生における使命（牧会における使命）とは、このキレネ人シモンのように自分の意思や思いを越えたことが多い」のではないかと、思われています。

今日のテキストは大きく、三つに分けられます。まず、最初の23章26節、今のアフリカ・リビアに住んでいたディアスポラ（離散した）・ユダヤ人であったとされるキレネ人シモンに焦点が当てられます。

彼はエルサレムへ来て、十字架刑に処せられることになった憐れな人の姿を道端でたまたま眺めていたのでしょう。その時、ローマ兵に目をつけられ、突然引き出され、代わりに十字架を背負わされることになってしまいます。その方とは、鞭打たれ弱り果て、歩くだけが精一杯になっておられた主イエス・キリストでありました。この時のシモンの動揺、屈辱感、絶望感は相当なものであったと思われます。ただ一つ、彼のその後について分かること。それは、マルコ福音書で彼を、「アレクサンドロとルフォスの父シモンと言うキレネ人」と、説明されていることです。（15：21）つまり、彼は、主イエスの十字架を担がせられたことで、その後、キリストの教会共同体のメンバーに加えられ、彼の子どもたちも信仰に導かれていたであろうと読み取ることが出来ます。

更に少し深読みすることをお許し頂くなら、同じ23章47節に登場する、主が十字架上で苦しむ姿。又、そこで発せられた主の言葉全てを目撃した百人隊長が「本当に、この人は正しい人であった」と告白した以上に、シモンは後に信仰告白をする者とされたのではないかと。十字架を負わされたことにより、ヨハネ以外の弟子たちは逃げ去って目撃できなかった十字架上の主イエスの姿。シモンは誰よりも主イエスの側近くで全てを目撃し、その証言を通し、初代教会を建てあげる重い使命の一翼を担ったのではないかと・・・と、想像の翼を広げたいと思います。

神学校卒業後、これまでに託された幾つかの教会での働きに携わる中、少しずつ見えてきたことがあります。それは、主なる神にそれぞれに託される使命、負わされる十字架とは、その人自身の意思・決断を越え、シモンのようにその場に居たことで担われ、結果的に神の栄光を表す人生とされていくのだと。ヘブライ語で「栄光」は重みという意味があり、正に「使命重し」とは神の栄光に接する働きに招かれている働きは想像以上に重いことを呼び掛けているのかもしれない。

少し私の証しをすることをお許しください。1989年に卒業した同期卒業生は10名おりました。一人は既に主の御許に召され、

今も私を含め7名が日本や米国で宣教牧会に関わらせて頂いています。その中で卒業時、最も期待されていなかった学生が私でした。他9名はそれぞれ赴任する教会が決まっていたが、私はもっと勉強したい、いやこのままの自分が直ぐに現場に出るのは無理だと恐れの方が大きく、入学する神学校も定まっていないうちで、渡米することになっていました。卒業した年の9月に渡米。まず短期大学付属語学学校ESLに入りました。結婚して一週間後に渡米することになった私たち夫婦は、私が学生ビザですから本来働くことはできません。生活の基盤が全くないなか、神の憐れみにより、米国南部アラバマ州の大学ギャズデン市のバプテスト地方連合が持つ、学生センターに住まわせて頂き、私が通う大学に当時300名を超える留学生たちへの国際伝道主事として働くことを託されたのです。

渡米6カ月目、忘れもしない1990年3月3日。同じ大学の日本人留学生がバイクの事故で即死。

大学から至急家族に連絡をして欲しいとの要請を受け、一度も会ったことのない日本の家族から電話口で、「自分たちは仏教徒だけれど、そこにいる宗教者は牧師さんあなただけだから、葬儀を行って欲しい」と依頼されたのです。

半分学生気分であり、全く心の備えが出来ていなかった私でしたが、現地米国教会の協力を頂き、私にとって、神学校卒業後初めての葬儀を執り行うことになりました。驚くことに、亡くなった男子学生はこの福岡出身で、当時私の父が牧師をしていた教会へ、帰国されて、東区の自宅から西区まで礼拝に通い出され、その年の内にご両親とお姉さん3人が信仰告白・バプテスマを授かる神の御業に遭遇させて頂きました。悲劇的な出来事の中にも神の不思議な御手が働いていく、今も生きて働く慰め主なる神の御業を見せて頂きました。

その後、私はノースカロライナのバプテスト州連盟から、州内にある神学校で学び、その州に多く住む日本人伝道のために働くなら、その神学校で学ぶ奨学金を出して下さるとの申し出を頂き、渡米翌年、その州へと移りました。学びを終えたら帰るつもりでいた私でしたが、州内数か所に点在する日本人集会を毎週末に巡回し、宣教牧会の働きをする中、何人もの方々から同じ言葉を投げかけられました。「今まで何人も日本人牧師が来て神学校で学び、日本へ帰って行かれました。どうせあなたも私たちを置いて帰っていくのですよね。。。。」と。最初は、元気よく「すみません。はい。そのつもりです・・・。」と、答えていました。しかしそのうち、私の心は大きく揺さぶられ、祈り始めました。「神さま、あなたが私に望まれている選び取る道・『使命』とは何なのでしょうか・・・。」と。葬儀を突然託されたあの出来事は海外在住邦人伝道の重要性を私に明確に示す出来事となりました。更に、米国神学校で牧会カウンセリングを学ぶつもりで行ったはずの私が、私自身の人生の過去の罪、隠し続けていた傷を、カウンセラーとなる

前に、私がカウンセリングを受けるカウンセラーとされる経験を重ねました。こうして、自らの心の内を初めてありのままに話す機会を授業で与えられ、真の心の解放を経験し、この為に神は私をこの場へ呼ばれたと知ることになりました。

これらのことを通して、改めて再献身、神からのCalling召命は、破れ多きこの私でさえも神の教会の働きに関わることだとハッキリ示されたのです。この神学部を卒業する時、海外宣教に携わるなどとは、微塵たりとも思っていなかった「使命・ミッション」を与えられ、長崎から招聘を頂き次の使命に移るまで、米国で約十年、邦人伝道に関わらせて頂きました。イザヤ書55章8節に、こうあります。。

「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる。天が地を高く超えているように わたしの道は、あなたたちの道を。わたしの思いは、あなたたちの思いを、高く超えている。」

正にこのみ言葉通り、神は人の思いを遥かに超えた道と使命を与えてくださるお方であることを教えられ、その後、教会の招聘に対して、自らの思いを越えた先をご存じである主に委ねたいと祈られました。

正にこの西南で心に注がれた、「遥けきかな我がゆく道、されば友よ、使命重し」。この言葉が何度も胸に響きました。

実は今日、旅立を前にされた方々へ、『使命』と共にお伝えしたいことがもう一つのことがあります。

それは、神がそれぞれに与えられる、「テーマ」です。テーマとは・・・主題、主旋律とも言い換えられます。牧会を重ねる中で教えられたのは、与えられた「使命」をより深め豊かにする事柄だと信じています。それは単旋律の独唱だけでなく、音が重なり、合唱曲のようにハーモニーを奏でるイメージです。神が牧師に、又もそれぞれのキリスト者に託される究極の「使命・ミッション」は福音宣教です。

しかし、それをなお豊かにするため、それぞれに託される「人生のテーマ」は実に多種多様で、ある人には、社会福祉活動、ある人には平和活動、音楽芸術、教育、スポーツ、政治経済など、言い尽くせません。そして、実はそれらも、自ら選び取ることもあります。突然負わされる事柄もあります。

私の置かれた場、牧会における「テーマ」は、米国では、神学校でのカウンセリングを通し、『全人的ケア』、長崎からは『平和』が加わり、更に常盤台では、『幼児教育』というテーマを託され参りました。

神学校を卒業した時、中学高校宗教教科免許を与えられ、確かに教育に携わることは一つの願いでしたが、まさかそれが幼児教育、それも園長職という働きが託されるとは、思いもしていませんでした。最初は戸惑いしましたが、その働きに関われば関わる程、いかに「幼児教育」と「教会形成」という私の使命と、

切っても切れない関りがあるかを、年を重ねる毎に教えられ、今に至っています。

神は、あなたの人生において、どのような使命・テーマを。お与えになっておられるでしょうか？

最後に、キレネ人シモンがイエスの十字架を担い、イエスの後を歩いていく、ゴルゴダへ向かう中、間近で聴いた主イエスの執り成しの言葉、そして祈りに触れ、メッセージを終わります。27節以下に記された、主イエスが死に至る道を歩む姿に嘆き悲しむ女性たちへ、主ご自身のことよりも彼女たちと、その後の時代の人々の苦悩の方を覚えて嘆くよう、語られた、「時代への執り成し」。その主の慰めの言葉を、キレネ人シモンは見聞しました。そして33節、十字架上の主イエスが、ご自身を十字架に磔にした人々、又その様子を黙認して見守る人々に対し、怒りや裁きではなく、罪の赦しと執り成される主イエスお姿をシモンは目撃したのです。

「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」と。

十字架刑につけた当時の愚かな指導者・宗教家・群衆への言葉に留まらず、この主の執り成しの祈り。それは、恐れが先立って主の声に直ぐに従えなかったこの私の為でありました。そして今、この世界を混乱に陥れているリーダーたちを含めた現代社会に生きる私たちのため、主イエスによる、時を越えた力強い執り成しの祈りではないでしょうか。この主にある執り成しの祈りこそ、私たち世界中全ての教会・キリスト者がキリストにある平和を実現するために必要な共通の「テーマ」であると思わされてなりません。

この西南学院で、生きて働かれる神の御言葉にこれまで触れ、旅立っていられる卒業生の皆さん。もし明確にご自身に与えられた使命やテーマを、今、この時に、手にされ、卒業されること、それも大いなる祝福です。しかし、たとえまだそれを手にしておられないとしても、主なる神が様々な方法で語りかけ、関わってくださることを信頼してください。あなたにしかない、負うべき十字架・使命とテーマを見出す喜びを、いつの日にか必ず体験されますことを信じ、お祈り致します。

「遥けきかな我が行く道、さあれ友よ、使命重し」。

2025 年度 卒業生紹介

【神学部神学科 キリスト教人文文学コース】11名

【神学部神学科 神学コース】1名

伊藤健一

推薦教会 福岡城南教会

進路 大学院進学

【リカレント生】2名

今井 牧夫

推薦教会 日本キリスト教団京北教会

横濱 峰二子

推薦教会 札幌バプテスト教会



※『卒業・修了・修士論文 CD 集』の廃止に伴い、2025年度から神学部報に論文要旨を掲載することになりました(神学コースは必須。人文学コースは修士の希望者のみ)。論文全文を入手されたい方はキリスト教活動支援課に問い合わせてください。

卒業予定者の招聘について

卒業予定者の赴任先については、原則として、神学部長が日本バプテスト連盟常務理事と協議の上、その紹介にあたっています。招聘についてのお問い合わせは、直接下記にご連絡ください。なお神学生が神学の学びに集中できるよう、お問い合わせは卒業年度に入ってからお願い致します。

【連絡先】神学部長 日原 広志

住 所：〒814-8511 福岡市早良区西新 6-2-92

西南学院大学 学術研究所

メール：hihara@seinan-gu.ac.jp

2026 年度 卒業予定者紹介

「絶望から希望への歩みを共に ～社会の周縁で『魂』の癒しに 仕える」

神学選科3年 石原 誠



多くの人に祈られ、支えられながら、ここまで歩み進めることができたことを心から感謝いたします。

私に献身の思いが与えられたのは 2020 年のコロナ禍で、人々の嘆きや叫びがあちこちで聞こえてくる真っ只中でした。日常生活に歪みが入り、社会的に不利な立場にある人や家庭（女性、子ども・若者、独居高齢者、障がいのある人、シングル家庭など）が真っ先に痛み苦しみを味わうこととなり、様々な格差が顕著に現れるようになった時です。直観的にこの状況は長期化すると感じ、また同時に、その嘆きや叫びを受け止め、苦難の中でも共にいてくださるイエス・キリストの希望の福音が必要だと思わされたのです。そうして私は従順に御心のままに歩み、福音を届けたいと願うようになりました。

現在、私は「居場所を失った子ども・若者へのミニストリー」というテーマで論文を執筆中です。その過程で、まさに居場所を失った子ども・若者たちと交流し、関係を築きながら、彼らの視点で社会を見つめ、彼らの声を聴き、一緒になって笑ったり腹を立てたりしながら、心の奥深くに潜んでいる叫びに触れたいとの思いでアウトリーチ活動をしています。すると、彼らの問題行動とされていることの奥には、社会構造の歪みがあることにリアルに気づかされます。その歪みに対して、多くの方が素晴らしい働きで支援の取り組みを行っていますが、それだけでは心の穴を埋める完全な「魂の癒し」にはならないと私は考えます。その「魂の癒し」に導くことこそ、神が私たちキリスト者、またその地に置かれた教会に託されていることであると私は信じるのです。

「私の目にあなたは高価で尊い」「私はあなたを愛している」とたえず語りかけてくださっている神さま。そして私たちの痛み苦しみのすべてを負ってくださった十字架と復活のイエス・キリスト。この福音を感謝と喜びを持って賛美し、共に宣べ伝えることができる群れでありたいと願っています。神の働きに参与し、祝福と恵みを分かち合う「神の家族」としての教会です。一人の人の人生が希望の歩みへと変えられていく、その奇跡を共に味わい分かち合う恵みに感謝し、喜び合えるように。それぞれの賜物を活かし合い、支え合い、仕え合える群れでありたいと願うのです。

主の恵みに癒され、一人ひとりが生き生きと心喜ぶ愛の交わりの中で、私自身もまた群れと共に養われ、成長させていただきたいと願っています。

「礼拝、聖書、宣教」

大学院博士前期課程2年 長尾基詩



「これから牧師になる人は大変だね」。多くの先輩、教会の方々からこのような言葉を頂いてきました。もちろん、そこま大変なのに、それでもこの道を選んだことに対して敬意を頂いてのことです。しかし、このことは事実に見えます。ほとんどの教会にとってその十年後の存続が危ぶまれる昨今では、教会の現実から決して楽観的な態度を取ることはできません。そんな中、「私の教会像」という題で貴重な紙面を頂きました。「私の教会像」と言っても、教会はイエス・キリストによって建てられ、キリストを信じるものによって形作られると信じていますから、相互の祈り合いと対話を元にして像が立ち上がっていくものと考えます。しかしまた私にも今日の教会にあって大切にしたいものがあります。

一つ目は礼拝です。礼拝は教会の生命線であり、教会が始まるどころです。私は地方の小規模教会で7年ほど過ごし、いかに地方教会にとって礼拝を守ることが死活問題であるかを感じながら育ってきました。そんな中で礼拝を大切にしようとした信仰者の背中を見て今の私がいます。私は何よりもまず礼拝が守られるために働きたいと思っています。

二つ目は聖書です。やはり信仰はみことばに聞くところから始まります。私は旧約聖書を研究し、その奥深さ、神の言葉の力に圧倒されました。私にとり聖書とは未だ私たちが掴み切ったとは言えない神の神秘であり、今まさに私たちに語りかけ、開かれようとしている啓示です。全年齢の聖書の学びはバプテスト教会が大切にしている誇るべき点です。私自身、聖書に心動かされ、学ぶことを一生大切にしたいと考えています。

三つ目は宣教です。私たちはこの世界にあって教会として立ちます。私が入学した時よりはるかに世界は揺れうごき、人も社会も教会も再考と変革を迫られています。隣人の叫びに耳が開かれ、突き動かされる思いで一歩を踏み出して行くことが教会のこれからの姿だと思っています。具体的な人との出会いを通して、神の福音を地で生きていくのが私の中の教会像です。そのためには政治に対しても感受性を持ち、社会が抱える問題に対しては正面から教会が語っていくべきと思っています。この世界は今、死に向かっています。しかし、聖書は私たちに「生きよ」と言っています。この神様の憐れみと忍耐と愛を教会がこの地にあって真摯に伝えて行くなれば、教会はイエス様の命が息づくところになると信じています。

— 2027 年度 西南学院大学神学部入試案内 —

【1 年次一般入学（英語 4 技能利用型を含む）】

○出願期間：2027 年 1 月 6 日（水）～1 月 19 日（火） ○試験日：2027 年 2 月 6 日（土）及び 2 月 8 日（月）

1. 神学（献身者）コース（キリスト教会信徒歴＊1 年以上）
2. キリスト教人文文学（一般学生）コース（信徒歴は問いません）

【1 年次独自指定校推薦入学】

○出願期間：2026 年 11 月 2 日（月）～11 月 9 日（月） ○試験日：2026 年 11 月 21 日（土）

※キリスト教学校教育同盟加盟の高等学校長または日本バプテスト連盟加盟教会牧師からの推薦を受けた者

【1 年次総合型選抜入学】

○出願期間：2026 年 9 月 11 日（金）～9 月 18 日（金） ○試験日：2026 年 10 月 17 日（土）

※神学部を第一志望とし、入学してキリスト教と聖書を学ぶことを強く希望する者

※高等学校第 3 学年 1 学期（2 学期制の場合は第 3 学年前期）までの全体の評定平均値が 3.8 以上の者

【2 年次転・編入学】

○出願期間：2026 年 10 月 2 日（金）～10 月 9 日（金） ○試験日：2026 年 11 月 5 日（木）

※神学（献身者）コースはキリスト教会信徒歴＊2 年以上を有する者

※大学第 1 学年次修了者（32 単位以上修得または修得見込）、短期大学または高等専門学校卒業者（見込含む）、文部科学大臣の定める専修学校（専門課程）を修了（見込含む）し大学入学資格を有する者

【3 年次転・編入学（学士入学含む）・選科・専攻科】

○出願期間：2026 年 10 月 2 日（金）～10 月 9 日（金） ○試験日：2026 年 11 月 5 日（木）

1. 3 年次転・編入学（学士入学含む）

※神学（献身者）コースはキリスト教会信徒歴＊2 年以上を有する者

※大学第 2 学年次修了者（62 単位以上修得または修得見込）、短期大学または高等専門学校卒業者（見込含む）、文部科学大臣の定める専修学校（専門課程）を修了（見込含む）し大学入学資格を有する者、学士号を取得している者（見込含む）

2. 選科生入学 高等学校卒業以上で 22 歳以上の献身者（バプテスト教会信徒歴＊2 年以上）

3. 専攻科入学 大学神学部卒業（見込含む）の献身者（キリスト教会信徒歴＊4 年以上）

【神学部研修生（聴講生）】

キリスト教宣教の伝道者養成のため、主として社会人を対象とした研修生制度（詳細は教務課（092-823-3305）へお問い合わせください）

【神学部リカレント生（聴講生）】

2024 年度から始まった制度です。詳細は、p.15「神学部リカレント生のご案内」をご覧ください。

＊「信徒歴」とは推薦教会における信仰生活を指します。なお、これらの年限は「日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金制度に関する規程」のものとは必ずしも一致しておりませんので、お気を付け下さい。

※神学コース志願者は、出願時に①牧師・伝道者としての召命・献身決意書、②所属教会の総会決議に基づく推薦書（伝道所の場合、母教会と伝道所の推薦書）、③所属教会牧師の推薦書（伝道所の場合、母教会と伝道所の推薦書）、④履歴書が必要となります。出願前に必ずキリスト教活動支援課（TEL 092-823-3336）までお問い合わせください。

※外国人留学生入学の制度もあります。お早めにお問い合わせください。

◎神学部入試に関するお問い合わせ*****

入試課 TEL：092-823-3366 FAX：092-823-3388

— 2027 年度 西南学院大学大学院神学研究科 神学専攻博士前期課程及び博士後期課程入試案内 —

【秋期（博士前期課程）】

一般・外国人等（国内居住者）及び社会人

○出願期間：2026 年 7 月 1 日（水）～7 月 13 日（月） ○試験日：2026 年 9 月 5 日（土）

【春期（博士前期課程）】

1. 一般・外国人等（国内居住者）及び社会人

○出願期間：2027 年 1 月 6 日（水）～1 月 14 日（木） ○試験日：2027 年 2 月 20 日（土）

2. 外国人等（国外居住者）

○出願期間：2026 年 10 月 1 日（木）～11 月 4 日（水） ○試験日：2027 年 2 月 20 日（土）

【春期（博士後期課程）】

1. 一般・外国人等（国内居住者）及び社会人

○出願期間：2027 年 1 月 6 日（水）～1 月 14 日（木） ○試験日：2027 年 2 月 19 日（金）

2. 外国人等（国外居住者）

○出願期間：2026 年 10 月 1 日（木）～11 月 4 日（水） ○試験日：2027 年 2 月 19 日（金）

◎大学院入試に関するお問い合わせ*****

大学院課 TEL：092-823-3368 FAX：092-823-3348

2025 年度 神学部報告

2025 年

- 4月1日 大学入学式、神学部始業礼拝(大学チャペル)、
開講講演(金丸英子教授、大学チャペル)、
大学院ガイダンス
- 5日 新入生オリエンテーション(1)(学内研修)
- 9日 前期授業開始
- 26日 神学部春の親睦会(室見神学寮)
- 5月12日 神学部ロングチャペル ジョナサン・マゴネッ
ト師(レオ・ベックコレッジ名誉教授)
- 28日 卒論、修論 構想発表会
- 6月4日 学術講演会(学術研究所主催) ジョナサン・マ
ゴネット師(レオ・ベックコレッジ名誉教授)
- 16日 神学部ロングチャペル ペトラ・フォン・ゲミ
ュンデン師(アウクスブルク大学名誉教授)
- 20日 神学校週間を覚える集い(福岡地方連合壮年会
主催、神学部・神学部学生会協力) 対面・オン
ライン
- 22-29日 神学校週間
- 7月7日 神学部チャペル 嶋田和幸師
- 22日 前期授業終了
- 23日-31日 前期試験
- 8月1日-9月24日 夏期休暇
- 2日-3日 夏季オープンキャンパス
- 12-15日 東アジア平和センター福岡主催東アジア
平和センター福岡(神学部共催) 第4回
アジア青年
- 22-23日 第60回全国壮年大会(浦和) 神学生1名、
教員5名(内オンライン2名)参加
- 9月24日 前期卒業式 人文2名卒業
- 25日 後期授業開始
- 10月1日 神学部カリキュラム懇談会
- 8日 伝道者養成に関する協議会、神学教育協議会
- 20日 神学部ロングチャペル 佐々木和之師(連盟
国際ミッションボランティア)「私たちの信
仰と暴力・非暴力 ールワンダとパレスチナ
の虐殺から問われていること」
- 22日 卒論、修論 中間発表会

- 27日 神学部ミッションデー 江原美歌子師
(NewSong 企画)講演「賛美歌ってどんな歌？」
と賛美歌ワークショップ 『『みんなのさんびか
1』ってどんな歌集？』

- 11月1日 2年転編入、学士入学、選科生入試 3名(人
文2年転編1名、神学コース2名)合格
奨学金委員・全国壮年会連合役員との懇談
- 6-9日 大学祭
- 17日 神学部公開シンポジウム『戦後80年』を考え
る(黄南徳神学部教授「敗戦後80年を考える」、
伊藤慎二国際文化学部教授「身近な戦争遺跡か
らたどる80年前の空気」、田村元彦法学部准教
授「ポスト・コロナの老いと成熟の平和」)
- 24日 学校推薦型選抜入試(指定校推薦他)
人文2名合格

- 12月12日 神学部クリスマス
- 25日 キリスト降誕祭(全学休講)
- 26日-2026年1月5日 冬期休暇

2026 年

- 1月6日 授業再開
- 21日 学部卒業論文、修士論文提出締切
- 21日 後期授業終了
- 22-30日 後期試験
- 30日 卒論、修論 最終発表会
- 31日 神学部出張公開講演「教会とハラスメント〜
共に生きる教会形成のために」(才藤千津子教授)
(東京地方壮年連合)
- 2月4-7日 大学入学試験(4日は神学部試験)
- 6-7日 第71回日本バプテスト連盟定期総会(ハイ
ブリッド)
- 20日 大学院神学研究科博士後期課程(博士)入学試験
2名合格
- 23日 福岡地方連合協力伝道会議「どげんすつと?
宣教協力」(神学部共催)
- 24-28日 新任牧師・主事研修会
- 3月6-7日 神学校入学前研修会
- 16日 実践神学担当者懇談会・近隣教会懇談会・
助言者の会
- 18日 神学部卒業礼拝、金丸英子教授最終講義
- 19日 大学卒業式
- 23-25日 日本クリスチャン・アカデミー主催、
神学生交流プログラム 1名参加

2025 年度 開講科目表

【神学部神学科】

科 目	担 当 者
キリスト教神学への招待A	踊 真一郎講師
キリスト教神学への招待B	コデ ^o イネター日原広志教授
旧約概論A／B	日原広志教授
新約概論A／B	濱野道雄教授
組織神学概論A／B	濱野道雄教授
実践神学概論A	才藤千津子教授
実践神学概論B	濱野道雄教授
ヘブライ語Ⅰ・Ⅱ	日原広志教授
ギリシア語Ⅰ・Ⅱ	石橋誠一講師
旧約釈義A／B	日原広志教授
旧約神学A／B	藤方玲衣講師
旧約原典A／B	藤方玲衣講師
新約釈義A／B	須藤伊知郎教授
新約神学C／D	須藤伊知郎教授
新約原典A／B	須藤伊知郎教授
教会史A／B	金丸英子教授
日本キリスト教史A／B	安高啓明講師
バプテスト史A／B	金丸英子教授
教義学C／D	濱野道雄教授
キリスト教倫理学A／B	志村真講師
フェミニスト神学	コデ ^o イネター濱野道雄教授
説教学A／B	濱野道雄教授
礼拝学B	越川弘英講師
牧会学A／B	才藤千津子教授
宣教学A／B	黄南德教授
キリスト教教育学A／B	中條智子講師
教会音楽A／B	麦野達一講師
実践神学A	野中宏樹講師
	(公害問題特別委員会)
実践神学B	コデ ^o イネター濱野道雄教授
	(性差別問題特別委員会)
キリスト教社会福祉論	滝口真講師
総合人間学A／B	湯川洋久講師
教会音楽研究A／B	福田のぞみ講師
教会音楽研究C／D	福田のぞみ講師
演習A／B(1)	須藤伊知郎教授
演習A／B(2)	金丸英子教授
演習A／B(3)	黄南德教授
卒業論文(1)～(8)	神学部専任教員
英会話A／B	黄南德教授
科 目	担 当 者
宗教心理学A／B	才藤千津子教授
カウンセリングA	才藤千津子教授

西南学院史	コデ ^o イネター北垣徹教授
GlobalLiberalArts(Religion)	湯川洋久講師
宗教科指導法Ⅰ・Ⅱ	才藤千津子教授

【神学専攻科】

科 目	担 当 者
旧約学特殊講義A／B	日原広志教授
新約学特殊講義A／B	須藤伊知郎教授
聖書学特殊講義A／B	藤方玲衣講師
聖書学特殊講義C／D	須藤伊知郎教授
旧約原典研究A／B	藤方玲衣講師
教会史特殊講義A／B	金丸英子教授
バプテスト史特殊講義A	金丸英子教授
キリスト教社会倫理A／B	志村真講師
牧会学特殊講義A／B	才藤千津子教授
牧会学実習	才藤千津子教授
牧会心理学A／B	才藤千津子教授
説教学演習	濱野道雄教授
教会形成論特殊講義A／B	濱野道雄教授
キリスト教教育学特殊講義A／B	中條智子講師
教会音楽特殊講義A／B	麦野達一講師
教会音楽特殊研究A／B	福田のぞみ講師
特殊講義(2)	須藤伊知郎教授
特殊講義(3)	野中宏樹講師
	(公害問題特別委員会)
特殊講義(4)	コデ ^o イネター濱野道雄教授
	(性差別問題特別委員会)
特殊講義(6)	黄南德教授
演習A／B	須藤伊知郎教授
論文(1)～(8)	神学部専任教員

【大学院神学研究科】

科 目	担 当 者
キリスト教神学特論	コデ ^o イネター須藤伊知郎教授
神学研究方法論	コデ ^o イネター須藤伊知郎教授
旧約学特論Ⅰ・Ⅱ	日原広志教授
実践神学特論Ⅰ・Ⅱ	濱野道雄教授
教会形成特論Ⅰ・Ⅱ	濱野道雄教授
説教学特論	濱野道雄教授
牧会心理学特論Ⅰ・Ⅱ	才藤千津子教授
キリスト教音楽特論Ⅰ・Ⅱ	麦野達一講師
キリスト教神学実習	濱野道雄教授、谷山恵一講師
臨床牧会実習	松見享子講師
神学演習	日原広志教授、才藤千津子教授
神学研究指導	須藤伊知郎教授

2025 年度 研究・活動・消息 (就任順)

須藤 伊知郎 教授

◆執筆

- ・「神は人を『雄と雌』＝『雄から雌までの様々なグラデーション』に創造した—2025 年 9 月 16 日女性牧師・主事の会主催研修会『聖書は女性を嫌ってる?』より」神学部学生会誌『道』50 号 (2025. 12. 16) 6-7 頁
(<https://www.seinan-gu.ac.jp/rel/Michi2025>)
- ・「ご挨拶」『西南学院大学管弦楽団創部 70 周年記念・第 63 回定期演奏会プログラム』西南学院大学管弦楽団 (2025. 12. 6)
- ・「心に鉄を入れられて 2025〈4-1〉 キリスト者と政治—平和を祈り願いつつ— 杖の言葉と剣の言葉」日本バプテスト女性連合『世の光』2026 年 1 月号 (2025. 12. 17)
- ・同〈4-2〉「あなたはあなたの隣人を愛すだろう、そしてあなたの敵を憎むだろう」同 2 月号 (2026. 1. 21)
- ・同〈4-3〉「幸せだ、平和を創る人たちは」同 3 月号 (2026. 2. 18)
- ・『戦後 80 年』を考える—2025 年 11 月 17 日神学部主催公開シンポジウム報告資料『西南学院大学神学論集』83 巻、1-48 頁 (2026. 3. 31)

◆翻訳

- ・ジョナサン・マゴネット『『そこにこそ、裁きの王座が据えられてあった』(詩編 122 編 5 節) ダビデとソロモンはどう裁いたか—2025 年 5 月 12 日神学部ロングチャペル』『西南学院大学神学論集』83 巻、49-66 頁 (2026. 3. 31)
- ・ジョナサン・マゴネット「預言が政治に出会う時：エレミヤの裁判 (エレ 26 章)—学術研究所主催・神学部共催学術講演会」『西南学院大学神学論集』83 巻、67-82 頁 (2026. 3. 31)
- ・ペトラ・フォン・ゲミュンデン「登場人物に照らして：マルコ福音書における人間論的・倫理的省察—2025 年 6 月 16 日神学部ロングチャペル」『西南学院大学神学論集』83 巻、83-108 頁 (2026. 3. 31)

◆講演

- ・女性牧師・主事の会主催研修会「聖書は女性を嫌ってる?」(オンライン 2025. 9. 16)

◆消息

- ・西南学院評議員 (～2025. 6. 30)
- ・情報処理センター委員
- ・西南学院史資料センター運営委員
- ・西南学院アーカイヴズ編集委員長
- ・西南学院管弦楽団部長
- ・日本新約学会理事
- ・西日本新約聖書学会理事
- ・日本聖書学研究所所員
- ・日本基督教会九州支部代表理事
- ・NTJ 新約聖書注解シリーズ監修 (福音書行伝グループリーダー)
- ・安全保障関連法の廃止を求める西南学院有志の会
(<http://seinan-gu.jindo.com>) 呼びかけ人
- ・福岡西部バプテスト教会員

金丸 英子 教授

◆執筆

- ・「歴代宣教師チャペル講話集の刊行に際して」(西南学院史資料センター通信「一粒の麦」)

◆研修会

- ・福岡バプテスト教会 「牧師招聘のための学び」(2025. 7. 27, 2026. 1. 18, 福岡教会)
- ・北九州バプテスト地方連合 信教の自由を守る 2・11 集会「なぜバプテストは『信教の自由・政教分離』を主張するのか」(2026. 2. 11, 若松教会)
- ・福岡バプテスト地方連合 どげんすつと宣教協力「バプテストと地方連合：フィラデルフィア・バプテスト・アソシエーション」(2026. 2. 23, 福岡教会)
- ・福岡バプテスト地方連合壮年会「信徒による教会形成」(2026. 3. 14, 福岡教会)

◆講演会

- ・神学部開講講演「ダンスターとホームズ：初期アメリカ・バプテストの信教の自由の戦い」(2025. 4. 1)
- ・福岡女学院大学 異文化へのアプローチ (アジア)—アジア共同体の平和「隣人と生きる：研究者のささやかな体験的実践」(2025. 10. 17, 福岡女学院大学)
- ・最終講義「学ぶべきは「ハム」だけか：第 3 代目院長 G.W. ボールデンにみるバプテストの矜持」(2026. 3. 18, 西南学院大学チャペル)

◆説教

- ・福岡教会主日礼拝説教 (福岡教会、2025. 4. 20, 5. 18, 6. 22, 7. 27, 8. 31, 10. 26, 11. 23, 12. 21, 2026. 1. 25, 2. 15, 3. 22)
- ・大学キャンドルサービス説教 (大学チャペル、2025. 12. 24)
- ・大学卒業礼拝説教 (大学チャペル、2026. 3. 19)
- ・福岡女学院大学チャペル (福岡女学院大学チャペル、2025. 10. 17)

◆聖書研究

- ・福岡教会コイノニア会 (2025. 6. 15, 7. 20)

◆消息

- ・大学神学寮寮監
- ・西南学院資料センター資料保存・運営委員会委員長
- ・関東学院大学キリスト教と文化研究所客員研究員
- ・Baptist World Alliance Commission on Baptist Heritage and Identity member
- ・Baptist World Alliance Commission on Baptist Doctrine and Christian Unity member,
- ・福岡バプテスト教会員
- ・日本基督教会会員
- ・日本キリスト教史学会会員
- ・アメリカ学会会員
- ・American Society of Church History 会員
- ・Baptist History and Heritage 会員
- ・Baptist Historical Society 会員

日原 広志 教授

◆執筆

- ・「献身を考えておられる皆さんへ」神学部学生会誌『道』第 50 号 (2025. 12)

◆講演・発題

- ・日本バプテスト連盟 2025 年度神学校入学前研修会主題講演「神学するとは」(zoom による、2026. 3. 6)

◆説教

- ・福岡有田バプテスト教会 (2025. 6. 29, 8. 31, 11. 30, 12. 24)
- ・西南学院高校卒業礼拝 (2026. 2. 27)
- ・神学部チャペル (2025. 4. 11, 12. 15)
- ・神学校週間を覚える集会 (神学寮、2025. 6. 20)
- ・日本バプテスト連盟 2025 年度神学校入学前研修会閉会礼拝 (zoom による、2026. 3. 7)

◆消息

- ・日本旧約学会員
- ・日本基督教学会員（九州支部会幹事）
- ・大学神学部長（2027.3 まで）
- ・大学国際化推進委員会委員
- ・大学全学点検評価委員会委員
- ・大学教学マネジメント委員会委員
- ・大学研究マネジメント委員会委員
- ・大学全学入試委員会委員
- ・大学院委員会委員
- ・大学キャリアセンター委員
- ・大学博物館運営委員
- ・神学部一麦奨学金委員会委員
- ・福岡有田教会員

濱野 道雄 教授

◆執筆

- ・「Book Review 谷本清・近藤紘子『ヒロシマを次世代に語り継ぐ』／原爆は「仕方がない」か 親から子へ継ぐ問い」、『クリスチャン新聞』2758 号（2025.8.3）
- ・「アジア太平洋地域の被爆者の証言 広島市の被爆二世として」、『非核・平和の調和・被爆80年！苦痛の記憶と記録』、한건비핵평화대회 Hapcheon Anti-Nuclear & Peace Festival2025 “피폭 80 년, 기억과 기록, 평화연대”（2025.8）
- ・「広島市の被爆二世として」、『원폭피해 80 주년 국제비핵 평화포럼』、（2025.8）
- ・「中東問題とキリスト教の責任」、『SEINAN Spirit』234 号、西南学院大学（2025.9）
- ・「日本宣教会 第19 回全国研究会と宣教の展望」、『日本宣教会 ニュースレター』、22 号（2025.11）
- ・「いつもあなたがたと共にいる」『2025 年度 チャペル講話集（59）』、西南学院大学（2025.3）
- ・「優しさ×キリスト教」『SEINAN Spirit』236 号、西南学院大学（2025.3）

◆講演・発題

- ・「特別討議のための提題」、日本宣教会第19 回全国研究会（於西南学院大学、2025.6.28）
- ・「キリスト教社会福祉の対象者と方向性～危機の時代にあって～」、日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会 第39 回 夏期職員研修会（2025.8.4）
- ・「アジア太平洋地域の被爆者の証言 広島市の被爆二世として」、한건비핵평화대회 Hapcheon Anti-Nuclear & Peace Festival2025（於韓国、ハプチョン、2025.8.5）
- ・「広島市の被爆二世として」、원폭피해 80 주년 국제비핵 평화포럼（於韓国、スウォン、2025.8.7）
- ・「広島市の被爆二世として」、韓国国会院内集会（於韓国、ソウル、2025.9.8）
- ・「説教における聖書学と教義学の関係について：説教および正典論をめぐる」、日本新約学会 第56 回学術大会（於上智大学、2025.9.13）
- ・「『パレスチナ問題』とキリスト教」、福岡女学院大学「異文化へのアプローチ（アジア）ーアジア共同体の平和」（於福岡女学院大学、2025.10.3）
- ・「パレスチナ問題とキリスト教ー神の『国』の平和をもとめて」、日本福音ルーテル教会九州壮年連盟大会修養会（於日本福音ルーテル二日市教会、2025.10.3）
- ・「パレスチナ問題と聖書の読み方」、日本バプテスト南九州連合伝道部研修会（於日本バプテスト東熊本キリスト教会、

2026.2.23)

◆説教

- ・西南学院大学神学部チャペル（2025.4.14）
- ・日本バプテスト連盟 鳥栖キリスト教会礼拝（2025.8.22）
- ・日本バプテスト連盟 西南学院バプテスト教会（2025.6.29）
- ・日本バプテスト連盟 鳥栖キリスト教会礼拝（2025.11.9）
- ・日本バプテスト連盟 鳥栖キリスト教会礼拝（2025.11.23）
- ・西南学院大学チャペル（2026.1.21）
- ・日本バプテスト連盟 鳥栖キリスト教会礼拝（2025.2.15）
- ・日本バプテスト連盟 鳥栖キリスト教会礼拝（2025.3.21）

◆消息

- ・西南学院大学 神学部学科主任（2025.4-2027.3）
- ・西南学院大学 学術研究所委員
- ・西南学院大学 大学論集編集委員
- ・西南学院大学 一般教育委員
- ・西南学院大学 大学院委員
- ・西南学院大学 授業評価検討委員
- ・西南学院大学 親交会委員
- ・西南学院大学 聖書植物園管理・運営委員
- ・鳥栖キリスト教会協力牧師
- ・日本バプテスト連盟 東日本大震災被災地支援委員会委員
- ・福岡地方バプテスト連合 社会委員会委員
- ・東京バプテスト神学校 講師
- ・学校法人 神愛学園みくに幼稚園 理事・評議員（2024.4-）
- ・日本基督教学会会員・九州支部幹事
- ・日本新約学会会員
- ・日本宣教会会員
- ・日本実践神学会会員
- ・公共哲学・公共宗教（神学）研究会会員

才藤 千津子 教授

◆執筆

- ・随筆「日系アメリカ人の強制収用とリドレス運動」（神学部学生会誌『道』第50 号、2025.11）

◆書評

- ・「関西学院大学神学部ブックレット1～16（キリスト新聞社、2008—2024 年）」日本基督教学会『日本の神学』第64 号（2025.9.）

◆講演・発題など

- ・講演 日本バプテスト連盟古賀バプテスト教会「日常生活の中のハラスメント～互いの尊厳を大切にするコミュニティを作るには」（2025.6.15）
- ・講演 九州バプテスト神学校 2025・2026 年度講師懇談会「神学教育におけるハラスメント～互いの尊厳を大切にするコミュニティの形成のために」（於大名クロスガーデン、オンライン併用、第1 回 2025.9.5、第2 回 2026.3.6）
- ・講演「呼ばれています～キリスト教から見た私のライフ・デザインング」同志社女子大学現代社会学部（2025.11.6）
- ・講演「教会とハラスメント～共に生きる教会形成のために～」日本バプテスト連盟東京地方連合主催研修会（於、常盤台バプテスト教会・オンライン併用、2026.1.31）
- ・講義「グリーフ・ケア」社会福祉法人京都いのちの電話第47 期相談員養成講座（2026.2.28）

◆説教・奨励

- ・2025 年度日本バプテスト連盟福岡地方連合女性会定期総会開会礼拝宣教（於、大名クロスガーデン、2025.5.10）
- ・日本バプテスト連盟古賀バプテスト教会主日礼拝説教（2025.6.15）

- ・日本バプテスト連盟豊前キリスト教会 高橋周也牧師就任
礼拝説教 (2025. 10. 12)
- ・日本バプテスト連盟平尾バプテスト教会・大名クロスガー
デン主日礼拝説教 (2025. 9. 28, 11. 30, 2026. 1. 25)
- ・2025 年度大学チャペルアワー講話 (於, 大学チャペル,
2025. 6. 3)
- ・2025 年度神学部チャペル説教 (於, 2025. 12. 8)

◆消息

- ・2025 年度在外研究 (於アメリカ、カリフォルニア州バーク
レイ, 2025. 8. 1～9. 1)
- ・日本バプテスト連盟平尾バプテスト教会協力牧師 (2018. 5.
～現在)
- ・一般財団法人日本バプテスト連盟医療団理事 (2024. 6. ～現
在)
- ・社会福祉法人バプテスト心身障害児 (者) を守る会評議員
(2018. ～現在)
- ・社会福祉法人福岡いのちの電話評議員 (2024. 6. ～現在)
- ・Pastoral Psychology 誌編集委員 (2013. 7. ～現在)
- ・日本実践神学会運営委員 (2022. 4. ～現在)
- ・日本基督教学会学会誌編集委員 (2024. 9. ～現在)
- ・日本基督教学会会員
- ・日本キリスト教教育学会会員
- ・日本心理臨床学会会員
- ・日本臨床心理士会会員
- ・日本バプテスト連盟 福岡地方連合「ハラスメント防止・
啓発・情報窓口」担当
- ・大学国際センター委員
- ・大学教員労働組合委員

ヒラルド ロドリゲス 准教授

◆講演・発題

- ・「注意散漫の現代社会において、イエスのテレサと十字架の
ヨハネの霊性が持つ意義について」
“On the significance of the spirituality of Teresa of
Jesus and John of the Cross for today’s distracted
society”、2026 年度神学部開講講演、2026. 4. 1

◆国外研究

- ・「霊性の実践と諸宗教間対話」アビラカトリック大学聖テレ
サ・聖ヨハネ国際センター (スペイン、アビラ) 2025. 3. 17
～2026. 3. 18)

◆消息

- ・神学部学生主任 (2026. 4. 1～現在)
- ・大学キャリアセンター委員 (2026. 4. 1～現在)
- ・大学院委員
- ・日本基督教学会会員
- ・「宗教と社会」学会員
- ・国際宗教社会学会員
- ・イベロアメリカ仏教学会会員
- ・早良キリスト教会員

黄 南徳 (ファン ナムドク) 教授

◆執筆

- ・第 4 回アジア青年平和学校-『沖縄で平和の朝を待ち望
む！』(東アジア平和センター・福岡、2025. 8)
- ・「振り返り、見通して」-アジア青年平和学校七年の歩み-
(神学部学生会誌『道』第 50 号、2025. 12)
- ・「早く行きたければ、一人で行け。遠くへ行きたければ、
共に行け。」(日本キリスト教会福岡城南教会だより第 94 号、
2025. 12)

◆講演・発題

- ・カルヴァンの教会論(日本キリスト教会福岡城南教会、
2025. 5. 18)
- ・「敗戦後 80 年を考える」(神学部、シンポジウム、
2025. 11. 17)
- ・「第 4 回アジア青年平和学校の評価と展望」(日本キリスト
教会福岡城南教会、2025. 11. 23)

◆説教

- ・神学部チャペル (2025. 5. 19)
- ・福岡城南教会 (2025. 8. 31, 2026. 3. 22)
- ・福岡教会 (2025. 9. 7)
- ・糸島聖書集会 (2025. 11. 16)

◆消息

- ・大学学生主任
- ・大学キャリアセンター委員
- ・大学学生相談室運営委員
- ・大学論集編集委員
- ・日本キリスト教会エキュメニカル宣教協力者
- ・東アジア平和センター・福岡センター長
- ・日韓反核平和連帯会員
- ・日本宣教会会会員

藤方 玲衣 講師

◆執筆

- ・書評「大串肇『エレミヤ書 1-20 章』」(「日本の神学
64」、2025. 5)
- ・博士論文「エリフ演説と『感謝の詩編』の言説の比較研
究」(2026. 3)

◆講話

- ・大学チャペル「「確かなこと」ってなんだったんだろう」
(2025. 5. 22)
- ・神学部チャペル「ヨブが異邦人であるということについ
て」(2026. 6. 3)

◆消息

- ・大学宗教部委員
- ・大学言語教育センター運営委員
- ・大学ラーニングサポートセンター運営委員
- ・西南学院資料センターバプテスト資料保存・運営委員
- ・日本旧約学会会員
- ・日本聖書学研究所所員
- ・日本基督教学会会員

新任教員紹介

「松岡正樹教授のご紹介」

神学部長 日原 広志

本年度、西南学院大学神学部では、松岡正樹先生を教授としてお迎えすることになりました。ご専門は歴史神学、とりわけバプテスト史です。先生は東北学院大学卒業後、同志社大学大学院神学研究科で学ばれ、日本バプテスト同盟において、長年の牧会（京都教会、杉並中通教会）と、日本バプテスト神学校における「キリスト教史」「バプテスト史」担当、教務主任、神学寮寮監として神学教育に携わってこられました。共著に『十五年戦争期の天皇制とキリスト教』（新教出版社）、『見えてくるバプテストの歴史』（関東学院大学出版会）などがあり、バプテストの信仰伝統に深く根ざした実践と優れた実績を有しておられます。神学寮も人文コース生を含めた新体制となる本年、教派を超えてバプテスト派の牧師経験者をお迎えできたことを、主に心から感謝いたします。

「自己紹介」

神学部教授 松岡 正樹

初めまして。2026年4月に神学部教員として就任しました松岡正樹（まつおかまさき）と申します。私は日本バプテスト同盟（同盟）の牧師として奉仕をすると共に、同盟の日本バプテスト神学校の教務主任、同講師として日本バプテスト史、日本キリスト教史、キリスト教史を担当してまいりました。今回は金丸英子先生の後任として、バプテスト史、教会史など歴史神学を担う役割を期待されているかと思いますが、微力ながら学生の皆様、同僚教員の皆さまと学びを継続したいと存じます。

私は北海道札幌市で生まれ、北海道庁に勤務する公務員でしたが、任地根室市の同盟根室キリスト教会でバプテスマを受け、札幌に戻り召命を受けました。33歳で東北学院大学文学部基督教学科に編入学し、宗教改革研究者として知られる出村彰先生から卒論の指導を受けたことが歴史神学の研究を継続する契機となりました。その後、同盟神学校を経て、同盟京都バプテスト教会に赴任し、同志社大学大学院神学研究科での学びをさせていただく機会を与えられました。研究のテーマは日本バプテスト連盟の前身である日本バプテスト西部組合を含めた米国南北バプテストの戦前日本での宣教史です。この分野はまだまだ担う人材も少数でどの程度の成果を残すことができるのかわかりませんが、研究を続けていきたいと思っています。

私の年齢からすると神学部の在任は5年間と短いものですが、神学部の働きのため励みたいと思います。皆様の祈りとご支援をいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

卒業論文要旨

「パウロの回心とその意義」

伊藤 健一

回心前のパウロは、自分を「律法に関してはファリサイ派」、「熱心さの点では教会の迫害者」、「律法の義に関しては非の打ち所のない者」と述べる。彼は、何故にキリスト者への迫害者とならなければならなかったのか。

当時、教会内部は、「ヘレニスタイ」と「ヘブライオイ」に分かれていた。パウロがキリスト者たちを迫害していた直接的な理由は、「ファリサイ派教師として十字架に架けられて神に呪われた人物をメシアとして信奉することを放任するわけにはいかなかった」（ガラ 3:13）からであろう。しかしそれだけでなく、熱心のあまり民族主義、国粋主義、原理主義的立場にあったパウロにとって、異邦人を受け容れること、律法を軽んずることなど、ヘレニスタイの行なっていたことのの一つ一つが到底許容できないものとなっていたのである。

使徒言行録9章では、突然、天からの光が彼の周りを照らし、ここからイエスの顕現物語が始まる。目が見えなくなった彼に、天からの声は、「私は、あなたが迫害しているイエスである」（9:5）と答えた。こうして絶対的な確信を持って歩んできたその核心は一瞬にして否定され打破されてしまった。とは言え、ガラ 1:15-16 からうかがえるパウロは、自分がキリスト者を迫害しているのが正しいのかどうかの迷いの中にあり、自分の律法を遵守する生き方について逡巡していたと思われる。

パウロの回心は、彼の側からの人間的な努力の延長線上に起きたことではなかった。彼に啓示されたイエス・キリストは、どのような姿であったのか。パウロは、「私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます」（Ⅰコリ 1:22-23）と語る。ここで用いられている「十字架に架ける」という意味の動詞は、受動相・現在完了分詞であり、過去に起きた出来事の結果が現在まで及んでいることを表す表現形態である。そこからパウロの新しい宣教が始まる。十字架を通して神と人の和解をもたらしたのも、律法遵守に専心していたパウロを変えたのもキリストであった。「十字架につけられたキリスト」との出会いと深い交わりは、彼の生き方を変え、彼は「キリストが私の内にいる」とまで言い切った。

パウロは、このキリストの啓示を使徒への召命と受け止め、さらに具体的に異邦人への使徒への召命と聴き取った。異邦人伝道は、復活のキリストによって根拠づけられると共に、キリストの十字架と復活をその証言の内容とした。その先頭に立ったのがパウロであった。

指導教員：須藤伊知郎 教授

2026 年度 西南神学生だより

新年度が始まり、新たな仲間と共に新しい歩みがスタートしました。私たちを学び舎に送り出し、また祈りや様々な支援でもって支えてくださっている全国の教会・伝道所の皆様には、心から感謝申し上げます。今年度の神学部・大学院神学研究科の神学生を紹介します。私たちのことを少しでも身近に感じていただければと思います。

なお、神学部学生会へのお問合せは s29aa001@seinan-gakuin.jp<会長アドレス>までお願いします。



神学研究科博士前期課程(修士)2年

長尾 基詩

推薦教会：府中キリスト教会

研修教会：長住バプテスト教会

ここまでのたくさんの出会いと導きにただただ感謝ばかりです。卒業、赴任に向けて学び、論文を進めています。主題は「申命記史書における悪・罪の機能や役割」です。聖書学は日進月歩で、研究史だけで膨大な作業です。しかし、これも人間がみ言葉を自由に解釈し、分かち合うことのできる聖霊から与えられた恵みの結果です。聖書には、そこに喜びを持って臨みたいと思われまし、人と人との関係も背後の神様の働きを確信しつつ、作り上げたいと思っています。



神学研究科博士前期課程(修士)1年

推薦教会：日本キリスト教会福岡城南教会

研修教会：日本キリスト教会福岡城南教会

定年退職を機に、家族からは、授業について行けずに除籍になっても何も失うものはない、という励まし(?)の言葉を受けて本学神学部神学科に学士入学させていただいたのが2年前のことでした。幸いそうはならず、無事にこの3月に学士課程を終えて卒業することができました。4月からは大学院博士前期課程での学びが始まりましたが、実りある学びの時となるよう精進したいと思っています。

時折、神学部に入學しなかったら、今ごろは悠々自適の生活を送っていたはずなのに・・・との思いにかられることがあります。新しい学びにチャレンジすることは決してたやすいことではありません。しかしそれでも、日々の学びの中で新しい発見が与えられ、やり甲斐を感じながらの生活が与えられていることは、何よりの喜びです。挫折せずに、研究計画に沿って研究を深めていきたいと願っております。



選科3年 石原 誠

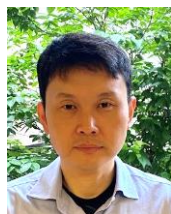
推薦教会：常盤台バプテスト教会

研修教会：久留米荒木キリスト教会

主のお導きにより、今年9月にはいよいよ修了の時を迎えようとしております。思い

返せば2022年度、全く想像もしていなかった神学生としての歩みが始まり、当初は慣れない勉学の毎日に圧倒されるばかりでした。しかし、その日々を重ねる中で気づかされたことは、自分の経験や能力だけを見つめれば立ちすくんでしまいますが、主が共にいて道を開いてくださるという確信が、私を内側から強め、前進させてくださるということです。この真理を身をもって体験できたことは、これから牧会の現場へと遣わされていく私にとって、かけがえのない生きた学びとなりました。その恵みに深く感謝しております。

これからの歩みもまた、未知なる連続であると覚悟しております。しかし恐れではなく、神への堅い信頼と、イエス・キリストに倣う従順な信仰を心に抱き、「強く、雄々しく」一歩一歩着実に歩みを進める者でありたいと願っております。



選科3年 大野 学

推薦教会：釧路キリスト教会

研修教会：西戸崎キリスト教会

3年目の学びを迎えられましたことを、心より感謝いたします。聖書のみを唯一の權威とするバプテストの精神に立ち、神の御心を深く汲み取るべく、今年度は新約聖書の原典履修に注力する決意です。聖書を正しく、かつ深く読み解く難しさを痛感する日々ですが、これこそが牧会の揺るぎない土台であると確信しております。主に、そして皆さまに仕える備えをなす1年となりますよう、この歩みが確かなものとなるために、引き続きお祈りいただけますと幸いです。



選科1年 橋口 恵

推薦教会：長住バプテスト教会

研修教会：長住バプテスト教会

2026春に選科へ入学しました。西南へ送り出していただき、同時に研修生として迎えてくださる長住教会の方々に日々支えられながら娘(小学2年生)と二人三脚で歩んでいます。

入学してひと月ですが、神学の広さ深さ豊かさを教えていただく毎日は、驚きや発見の連続で心静かに興奮しています。目まぐるしくも楽しい授業の合間に、学園内の聖書植物園を観察して息抜きをしています。また月(神学部)・火~木(大学チャペル)で行われる礼拝を受けてから授業に向かうことができ、キリスト教学校の素晴らしさを実感しています。最後に、これから神学の学びを経てみ言葉に仕える働き人として遣わされるよう祈っています。どうか、覚えてお祈りいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026 年度 西南神学生だより



神学部3年 麦野 基和
推薦教会：福岡西部バプテスト教会
研修教会：未定

はじめまして。今年度から西南学院大学神学部で学士編入して参りました、麦野基和と申します。3月に横浜市の大学を卒業し、この4月から神学部での学びをスタートさせました。大学卒業、引っ越し、入寮、入学など慌ただしく日々を過ごしており、気づいたら授業が始まっていたように感じます。福岡には高校卒業以来、4年ぶりに帰ってまいりました。大好きなこの街で神学生として新たな学びができること、本当に嬉しく思っております。また、何よりも私がこうして神学生としての学びを始められているのは、皆様のたくさんの祈りと支えによるもの、そして何よりも神様に支えられているということ強く感じております。本当にありがとうございます。まだまだ未熟者で、右も左もわからないままですが、与えられたミッションに向かって主と共に歩んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



神学部2年 渡辺 鷹優
推薦教会：大阪中央バプテスト教会
研修教会：西南学院バプテスト教会

神学部での学びも二年目に突入します。初年度を振り返ると、横浜での全国青年大会、韓国でのユースキャンプ、さらにワルシャワでのウクライナ難民支援ボランティアなど、多くの方々の支援の下で様々なプログラムに参加することができました。

それぞれの場所で多くの学びを得ることができた恵みとともに、多くの出会いから、自分自身の「変化」を大きく感じ、感謝で溢れる一年だったと感じます。

今年度はさらに身も心も砕かれて、良い部分は残しつつも今までの価値観を徹底的に壊しながら更に新しい自分へと成長する一年にできたらなと思っています。

神学部出張講演のご案内

かねてより神学部では、全国の「地方連合」枠で、年2回を目途に「出張公開講演」を行ってまいりました。西南学院大学とはどのような大学なのか、神学部では普段何を教えているのか、をより身近に知っていただくために、日ごろのクラスを地方連合までいわば「出前」して、体験していただく企画です。今年度は、濱野道雄教授（実践神学）と藤方玲衣講師（ヘブライ語聖書学）の二人の教員が出張講演を担当いたしますので、ぜひお申込みくださいますようお願い申し上げます。

講演者の交通費・宿泊費はすべて当方で負担いたします。また、講演料は不要です（但し、当該講演の前後に設定された別枠での御奉仕—例えば礼拝説教奉仕等—についてはこの限りではありません）。なお、zoomなどインターネットを利用して講演会を実施することもできます。

神学部では、この出張公開講演が全国諸教会の皆さまと神学部とを結ぶ架け橋の一つとなることを願っております。貴地方連合がこの機会を「将来伝道者になる人々」と神学部の出会いの場としてもご利用くださいますよう、ご案内申し上げます。

お申し込みの際は、私どもまで、ご希望の時期・集会名・講師等を具体的にお伝えください。今年度の講演テーマは、下記の2つです。「平和の神学」「教会形成論」（濱野）、「ヘブライ語聖書内部の多声性について考える——ヨブ記の不思議」（藤方）

ご連絡は、神学部長宛てメール（hihara@seinan-gu.ac.jp 件名＝「出張公開講演の件」）にて、お願いいたします。（なお、できるだけご希望に沿うよう努めますが、組み合わせ次第ではそうならない場合もありますことを予めご了承ください）

在 主 神学部長 日原広志

神学部リカレント生のご案内

神学部では、2024 年度から、卒業後教育の一環として、次期赴任に向けて待機されている牧師、また牧会する教会を離れての研修期間や休暇（サバティカル）をとられる牧師などを対象として、「リカレント生」制度を開始しました。リカレント生は大学の制度上は聴講生です。現場での貴重な経験を基にして、神学部や大学院神学研究科で学び直しながら、ご自分の牧会を振り返ったり、学びのリフレッシュの時を持ったりしていただけると幸いです。詳細は、神学部長までお尋ねください。（メール：hihara@seinan-gu.ac.jp）